

A

「本人や家族の不安を軽減するための連携方法を考えよう」

○アルカディアでは担当者会議をZOOMでやろうと検討中。

○正しい知識って大事ですね。

○高齢者に伝えるのは難しいよね。

○伝えても怖いものはこわいよね。

B

「本人や家族の不安を軽減するための連携方法を考えよう」

○自分を守りながら、相手を守りながら、利用者に迷惑をかけない為に、今している対策

- ・ デイの利用者に口や鼻を触らないように伝えている
- ・ ティッシュ等個別に使用し、ゴミも個別に捨てる(テーブルに個々の箱を置く)
- ・ 標準予防策を持続できる環境を作る(消毒をルーティン化できる体制)
- ・ 必要な外出か自己判断の重要性(玄関先や電話でも行える面談か)
- ・ プリント用紙、お金、ドアノブ、忘れがちな場面でも再度注意する意識を持つ

○講義を通した、新たな気づき

- ・ 感染対策の知識を共有することで、皆で同じ対策をとることができる
- ・ PCR検査に頼らない正しい基礎知識を持つこと
(検査をしなくても、濃厚接触ではなかったと確信が持てる行動)
- ・ できない事より、どうしたら出来るのかを考えていく事
- ・ 標準予防策と統一した共通認識を持った行動をとること。
- ・ サービスと共に安心を提供するためにできること。
- ・ 情報を職場に生かしていきたい。

C

「本人や家族の不安を軽減するための連携方法を考えよう」

○普段から感染予防対策（マスク、手指消毒）を徹底している為、自分がかかったとしても濃厚接触者を出さない。

○施設での対応としては、現在は面会禁止等の対応をとっているが、テレビ電話など調整中。

○面会できない為、ご家族に電話で入居者さんの状況を伝えている。

○家族だけではなく、本人からも家族に会いたいとの要望がある。フロアで対面式でシールド等で仕切って面会は可能ではあるが、手を握ったり、触れたりするというスキンシップができない為、本人にもストレスになっている。認知症が進行するケースもあった。本人目線で考えてあげたい。

○ガイドラインを作成したが、職員同士の連携が取れていないこともあった。

※基本的に徹底すべきは、感染対策（手指消毒、マスク着用、体温測定、症状がある時は外出を控える等）を確実に行う。

D

「本人や家族の不安を軽減するための連携方法を考えよう」

<訪問時に必要なこと>

1.利用者様・ご家族の体調確認。県外への渡航歴の確認。

・お互いの体調を確認することで、安心感を得る。

2.マスク・消毒液・必要に応じてエプロン

・お互いの安全のために用意する。ご家族が不快にならないよう説明が必要。

またマスクをしていない利用者様のために予備のマスクを用意する。

※現在感染予防することが当たり前であり、予防をすることがお互いの安心につながる。

<施設での対処法>

○ご家族に会えないことで、利用者様の気持ちが落ち込んでいる様子が見られた。

そのため感染予防をしながら面会できるように考慮した。

1. ベランダでの面会

2. 面会予定のご家族へ事前に一週間検温を依頼。

※これらの対策をして面会をすることでご家族・利用者様に笑顔が見られるようになった。

※コロナが発生していろいろ大変ですが、感染対策をすることがお互いの安全を守れるのではないかと思います。

E

「本人や家族の不安を軽減するための連携方法を考えよう」

- 流行初期の段階では感染についての知識や情報が不十分だったが、現在感染対策の方法や感染症についての情報もわかっていることが多いので利用者や家族に情報提供しながら共有することで不安を軽減していくことが必要。
- 計画しているサービスが、事業所先での感染発生で利用できなくなった際に急遽利用できる他の事業所へ調整を図り、利用者・家族が困らないような対応をおこなった。
- 利用している事業所の面会が制限され、モニタリングができない状況であったが、事業所の工夫で玄関先での面会であったり窓越しでの面会での対応をしてくれたので、モニタリングを実施することができた。

F

「本人や家族の不安を軽減するための連携方法を考えよう」

＜本人や家族の不安を軽減するために行える事＞

○介護支援専門員自身が自己管理を行い感染源とならないようにする。

※消毒液やマスク・体温計の常備。

＜本人や家族に利用中のサービス事業所のコロナ対策について取組みを伝える＞

例：通所介護だと、各利用者がマスクをしている。消毒や手洗い、利用者との接し方等。

自宅で行えるコロナの感染予防対策活動について伝える。

手洗い・うがい・マスク等の利用について介護支援専門員が説明していく。

G

「本人や家族の不安を軽減するための連携方法を考えよう」

<本人>

- 不安解消・まめに連絡
- 体調が悪い時の連絡先の確認

<ケアマネ>

- 必要なサービスの導入
通所 → 訪問 へ
- ※感染対策をしながら訪問する。

<サービス事業者>

- 利用者へサービス利用前に感染予防をしっかりと伝える。

<その他>

- 情報提供・啓蒙する必要がある
- 定期的に正しい情報を開く

<医療関係>

<家族>

H

「本人や家族の不安を軽減するための連携方法を考えよう」

不安のなかで

- サージカルマスクの商品の説明も大事ではないか。
- 感染した場合のパターン分け（A・B）も大事ではないか。
- 家族が感染した場合はどこに相談したらよいのか。
- コロナ濃厚接触者のホテル待機場所
自治体：陽性者の方はホテル（家族の不安）
自宅待機の時はどうしたらよいのか？
- 2件実体験があり、本人は自覚がない場合がある（独居）
- ケアマネさんからは、情報があまり知らないとの意見あり。
- 沖縄県に関しては、車社会なので移動は安全ではないか。
- 今回の研修会の原國先生の講義はかなり参考になった。
- 包括の職員からは、訪問して分かったことは、本人・ご家族さんが
新型コロナウイルス感染症に関する考え方が極端であるとの意見あり。
- 間違えてご家族にコロナですかの確認。